

都電荒川線

Facilities Information



学習院下付近



荒川二丁目付近



車と行き交う都電荒川線



昭和40年代の銀座四丁目停留場の様子

明治44年の開業以来「都民の足」として活躍。
「人と環境に優しい交通手段」は改めて注目されている。



施設案内

Information

都電荒川線は東京に残る唯一の都電だ。三ノ輪橋／早稲田間の約12.2kmを走る都電荒川線は1日約5万6千人が利用する大事な都民の足。また「チンチン電車」としても親しまれ、ノスタルジーあふれる乗り物として依然高い人気がある。TV番組や雑誌などでもたびたび特集が組まれ、下町情緒あふれる風景を眺めながら都電荒川線の旅を楽しむ観光客も多い。

そもそも都電荒川線が誕生したのは明治44年8月。当時の王子電気軌道(株)として開業し、昭和17年に東京市電気局に統合される。当時東京の都電は41系統もあり、文字通り「都民の足」として東京都内を網羅していた。最盛期の昭和18年頃には、1日に193万人もの利用客があったという。

だが戦後の昭和40年代、自動車が増加するにつれ都電は徐々に冬の時代へ。軌道敷内への自動車の乗り入れなどによる輸送効率の低下で、都電は徐々に撤去されていった。そのなかで環境にもやさしく沿線住民からも存続要望が強かった27系統三ノ輪橋／王子駅前と32系統荒川車庫前／早稲田の2系統が残されることに。昭和49年10月1日、この2系統を統合し誕生したのが都電荒川線なのだ。



バラと都電(三ノ輪橋)

東大和市にたたらぜひ立ち寄りたいのが東京都薬用植物園。ここは薬草の利用や栽培方法などの研究を目的とした施設で、一時代は移り21世紀。環境に配慮した交通手段は世界の大都市の課題だ。そうしたなか、排気ガスが出ない路面電車は21世紀の今の時代にこそふさわしい都市交通機関として、路面電車の存在意義が改めて見直されている。実際、荒川線でも「人と環境に優しい交通手段」を目指し、スロープや視覚障害者誘導ブロックを全停留場に設置し、全車両に車いすスペースを設けるほか、車両と停留場との段差解消のため停留場の高上げをするなど、バリアフリー化を図っている。また「もっと都電荒川線に親しんでもらおう」と年に2回、車庫の見学会などイベントも実施している。

高速道路がうねり、自動車がめまぐるしく走る東京の街。そんななか、ゴトゴトと走る都電荒川線は忘れていた何かを思い出させてくれるような、そんな温かみも運んでくれる。

DATA

都電荒川線

TEL : 03-3893-7451 (荒川電車営業所)